

6年 1学期【理科】 主な評価規準

江戸川区立第二葛西小学校

単元	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
ものが燃えるしくみ	物が燃えると、空気中の酸素の一部が使われて、二酸化炭素ができることを理解している。	缶の上だけでなく、下にも穴をあけた方がよく燃えるのは、空気とどのような関係があるのか予想を立てている。	燃焼の仕組みについて、根拠のある予想を立てて実験し、実験内容と結果を関係づけて自分の考えをまとめている。
	物の燃焼の前後の空気の組成の比較実験の結果を、正確に記録している。	気体検知管や石灰水を使った実験結果を総合的にとらえて考察し、物が燃えると、空気中の酸素の一部が使われて、二酸化炭素ができることを導き出している。	燃焼の実験結果をもとに考察したことについて、自分の意見を図や言葉を使って人にわかりやすく伝えるくふうをしている。
ヒトや動物の体	ヒトは呼吸によって体内に酸素を取り入れ、体外に二酸化炭素を出していることを理解している。	燃焼の仕組みで学習したことから、呼吸のはたらきについて予想し、実験の計画を立てている。	唾液のはたらきを調べる実験結果をもとに考察したことについて、自分の意見を人にわかりやすく伝えるくふうをしている。
	血液は、心臓のはたらきで体内を循環し、養分、酸素、二酸化炭素などを運んでいることを理解している。	血液のはたらきを、消化や呼吸などのはたらきから総合的に考えて予想している。	呼吸のはたらきを調べる実験計画について、友だちとの話し合いを通して自らの考えを見直している。
	唾液のはたらきや呼吸の仕組みを調べる実験の結果を、正確に記録している。		
植物のつくりと（はたらき）	日光が当たると、植物は二酸化炭素を取り入れ酸素を出していることを理解している。	5年生の植物の発芽の学習をもとに、植物の成長にでんぷんが必要かどうかについて根拠のある予想を立てている。	植物と空気との関わりについて、根拠のある予想・仮説を立てて実験し、実験内容と結果を関係付けて自分の考えをまとめている。
	気体検知管を用いて、植物が出し入れする気体が何かを適切に調べている。	友だちの意見を聞いて、自分の予想の妥当性について考えている。	植物の成長と日光の実験結果をもとに考察したことについて、自分の意見を人にわかりやすく伝えるくふうをしている。
	でんぷんができるためには、葉に日光が当たる必要があることを理解している。	植物の蒸散実験の結果をもとに、葉まで行き渡った水のゆくえについて考え、わかりやすく表現している。	
生物どうしのつながり	生物は、「食べる・食べられる」という関係でつながっていることを理解している。	今までに学習したことをもとに、生物が食べ物や空気、水を通してどのように関わり合っているのかということや、水と生物の関係について、根拠のある予想を立てている。	生物と空気との関わりを調べて考察したことを、人にわかりやすく伝えるくふうをしている。
	動物の食べ物のもとをたどると、自分で養分をつくる生物に行きつくことを理解している。	生物の食べ物を通じた関わり合いについて、様々な動物の食べ物を調べた結果をもとに発表し合い、多面的に考察している。	

